

4/9

認知症男性を保護せず

警視庁と消防 2日後公凍て死

昨年八月、横浜市鶴見区のデイサービス施設が行方不明になった認知症の男性＝当時（八三）が東京都中野区で倒れているのが見つかったが、対応した複数の警察官が保護せず、二日後に死亡していたことが、警視庁への取材で分かった。東京消防庁の救急隊も「男性が搬送を辞退した」とし

て救急搬送しなかつた。男性的な家族は警察に届け出でいたが、警視庁は男性の身元照会をしていなかつた。

警視庁地域部によると、男性は昨年八月十九日午後、鶴見区のデイサービス施設から行方不明になり、同二十三日朝にJR中野駅近くの紅葉山公園のトイレ脇で死亡しているのが見つ

男性が死亡するまでの経過

2014年8月19日 認知症の男性(83)が横浜市鶴見区の施設から行方不明になり、家族が神奈川県警に届け出

21日 東京都中野区のJR中野駅
午前 近くで男性が倒れている
のが見つかる。男性は救急車
搬送を拒み、警視庁中野署員は近くの公園に案内

21日午後 公園で寝込んでいる男性を別の中野署員が発見。男性は再び搬送を断り、署員は保護せず現場を離れる

23日 男性が公園トイレ脇で死
午前 亡しているのが見つかり、
9時ごろ 身元不明遺体に

15年2月 男性の家族が警視庁ホームページで遺体情報を発見し、身元が判明

答えず、伝えた生年月日も實際とは違っていた。警察官は男性とのやりとりから「急病人ではない」と判断。認知症を疑うことなく、男性が喉の渇きなどを訴えたため、紅葉山公園に案内し、男性と別れた。

その後、同日午後十時ごろ、「公衆トイレ近くで異性が寝込んでいる」との二

「ジに掲載。それを見た男性の家族が一月に警視庁に連絡し、DNA型鑑定で男性の遺体と特定した。

警察官は男性と応対した際、「気分が悪くなつて一時的に横になつていた近所

訓に身元照会時の年齢幅を広げたり、高齢の場合は認知症も疑うなど慎重な対応を徹底したい」と述べた。東京消防庁は「個人情報の保護を理由に答えられない」としている。

とあるわれらのところ
一日前の二十一日前半
時二十分ごろ、男性が中野駅
駅近くの路上で倒れている
のを通行人が見つけ、中野

庄や脈などは正常値だったが、三七・六度の発熱があつたという。救急隊は搬送しようとして、だが、男性は断り、警察官が

一〇番を受け、交番の別の警察官が公園で、男性を発見。男性は「大丈夫」と繰り返したため、保護せずに現場を後にした。

の人】「ボーミレス」などと推測し、すぐに身元照会をしなかつた。